



正門から部活の男子生徒が門礼をして登校

第43号

題字 西 春彦 著

○発行所 川辺高等学校東京同窓会

○発行日 令和元年 10 月 26 日

○編集発行人 森山昭利

○印刷所 株式会社 盈進社 ☎03(3262)3471

第43回会
第 総

東京同窓会

前日に関東地方に梅雨入り宣言が出されたばかりとあって、会員の出足が心配されましたが、幸い薄曇りの天気となった令和元年六月八日(土)、新宿ワシントンホテルで第四十三回川辺高等学校東京同窓会総会・懇親会が開催されました。

本総会には、森田剛本部長、前田裕一教頭先生、高山裕司先生が、ご来賓として参加されました。前日には、これら三名のご来賓を交えて、東京同窓会の小原会長をはじめとする役員有志との交流会が催され、母校の現状や課題などについて熱の入った意見交換を行いました。

参加者数は最終的に、昨年を若干下回りましたが、ご来賓を含めて百六十名を上回る盛会となりました。総会に先立って、午前十一時から東京同窓会の会員で、株式会社醸造産業新聞社相談役の矢島寿史氏(四十五年卒)による、「世界の酒と焼酎」と題した特別講演が開催されました。演題が鹿児島島の焼酎に関するものだけに、開始直後にはほぼ満席となり、講師の軽妙な語り口もあって、皆さんが熱心に聞き入って

いました。講演後には参加者からかなり専門的な質問も出され、講師からは丁寧な説明がありました。

その後、別室で小原会長を議長として総会が開催されました。

恒例の物故者への黙祷に続き、小原会長の挨拶がありました。続く会務報告では、昨年十二月六日に母校からの修学旅行生を迎えて、東京同窓会の役員六名が講師として「神戈陵塾in東京」と題して、様々な話題を取り上げての懇話会を開いたことが紹介されました。

議長が、この会務報告に続く会計報告、会計監査報告の三議案をまとめて、出席者に諮ったところ、満場一致の賛成によって承認されました。なお、会計監査の説明に合わせて、会計監事から決算事務の効率化のため、東京同窓会の会計年度を、会則第十四条の2に定める「毎年四月一日から翌年三月三十一日まで」から「毎年一月一日から十二月三十一日まで」に変更する件につき、来年の総会の議案とするよう提案がありました。

第4号議案として、近年開催場所

の確保が困難になりつつあることなどを主な理由として、東京同窓会会則の第十六条に定める開催時期「年一回6月」を「年一回4月から6月の間」に変更する件が上程され、議場に諮られた結果、満場一致の賛成によって承認されました。

第5号議案として、小原会長の退任と顧問への就任、森山副会長の会長就任を中心に副会長、幹事長、副幹事長、会計幹事長を含む新体制の役員改選案が提出され、議場に諮られた結果、出席者全員から異議なく承認されました。

その後、森山新会長から就任挨拶と会員へのご支援・協力のお願いがあり、続いて新体制の各役員の紹介が行われました。

続く懇親会は、年度幹事である畠中耕一さん(五十年卒)と下之園ルリ子さん(五十一年卒)の司会で始まり、ご来賓十一名の方々を紹介されました。

まず、森田剛本部長が、来年の母校創立一二〇周年事業に関して、鹿児島県の高校で初めてといえる、生徒全員にタブレット端末を貸与する企画を説明し、母校同窓会の支援を強く訴えられました。

続いて、前田教頭先生がビデオ動画を使って、卒業生グループが作成

した川辺高校のCM画像や生徒たちの海外研修などの活躍ぶりを紹介されました。

タブレット端末やビデオ画像の活用など、時代が大きく変わりつつあることを強く感じました。

その後、今総会の担当年度幹事の紹介があり、昭和三十年卒の井料和彦先輩の音頭で、待ちかねていた乾杯を行い、年次別に分かれたテーブルでの懇談に移りました。

刺身こんにやく、つけ揚げ、ホテルの料理にイモ焼酎も加わり、どのテーブルも一挙に盛り上がりました。

宴もたけなわにさしかかり、有志の女性陣が、テーブルの間を縫って「炭坑節」や「おはら節」を踊り始めました。踊りの終わりに、井料先輩が飛び入りで「大根畑でげんねこつしやんな…」と、おはら節の替え歌を歌い始めると、会場全体が拍手と笑いに包まれ、大いに盛り上がりました。

最後に、堂園俊秋先輩(三十八年卒)の指揮で新旧校歌を全員で斉唱、大坪剛先輩(三十二年卒)の音頭で万歳三唱のあと、峯苦副会長による閉会のあいさつをもって第四十三回東京同窓会総会・懇親会は終了しました。

(昭和四十一年卒 森山会長記)





就任のご挨拶

東京同窓会会長
昭和四十一年卒

森山 昭利

川辺高等学校東京同窓会会員の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

去る令和元年6月8日に、東京同窓会の第43回年次総会・懇親会が開催されましたが、約160名の会員の皆様が出席され、和やかで活気にあふれた集いとなりました。本総会におきまして、私、森山昭利(昭和22年生まれ、知覧中学校出身、昭和41年卒)は、第43、44期の東京同窓会会長に選任されました。

今年(令和)への改元の年、そして来年は母校の創立120周年、さらに私が在学中の1964年に開催された東京オリンピックがふたたび東京で開催される年でもあり、時代の移り変わりを強く感じる中で、身への引き締まる思いです。拜命にあたり、多くの会員が楽しく活動に参加できるような東京同窓会にすることを目指して、役員、幹事、評議員の皆さんからご協力・助言をいただきながら微力を尽くしてまいります。ご存でございます。

ひるがえって母校川辺高等学校の現状をみますと、少子化の影響を受



退任にあたって

東京同窓会会長
昭和三十八年卒

小原 東洋明

東京同窓会会員の皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この六月に開催されました第四十三回総会懇親会は多数のご出席を頂き盛大に開催されました。ご出席頂きましたご来賓・会員の皆様に厚く御礼申し上げます。また企画運営に携わった役員・年度幹事の皆様には、お忙しい中、準備に奔走して頂きまして。感謝申し上げます。

さて、私は予期せぬ家族の介護を担う事態に直面し、この総会に於きまして一期二年の会長職を退任致しました。

来し方を振り返ると、これまで無縁であった同窓会に、年度幹事として初めて参加したのが、十五年前になります。以来、諸役を歴任して参りました。課題山積の中、その職責を果たせたか内心忸怩たる思いはありますが、曲がりなりに十五年間の活動を全う出来ましたことは、会員・役員の皆様方のお力添えの賜物と、感謝申し上げます。

当同窓会には評議員会・幹事会という立派な組織があり、ほぼ毎月開催される役員会には大勢の幹事の皆

様が集い、いつも楽しい会合でした。これが十五年間活動を続けられた原点かと思えます。また、(株)進社様のご厚意で活動拠点が提供されており、同窓会活動の助けとなつていきます。厚く御礼申し上げます。

当会最大の課題は、昭和五十年代以降の会員が極端に少ないことです。以降の会員が極端に少ないこと。ホームページの開設など諸施策を実施して参りましたが、未だその効果が得られていません。少し心残りではございますが、森山会長を中心に引き続き取り組んで頂きたいと思えます。

母校は来年百二十周年を迎えますが、伝統校と言えども、存続さえ危ぶまれる現状です。母校あつての同窓会、物心両面での支援が必要です。昨年はささやかですが支援金を送り、修学旅行で上京した生徒たちと懇談会(神戈陵塾(東京))を開催し、後輩たちを励まして参りました。会員の皆様にはご支援のほどよろしくお願い致します。

末筆ながら、会員の皆様の一役のご健勝と東京同窓会の益々のご隆盛を祈念し、退任のご挨拶と致します。





創立百二十周年に向けて

同窓会会長 森田 剛
昭和四十三年卒

会長に就任して一年が過ぎました。その間「東京同窓会」をはじめ八つの同窓会に参加させていただきまし

た。どの会場とも年々参加してくださる方の減少に悩みながらも会員相互の親睦を測り、母校を懐かしみながら盛大に催されている様子に感銘を受けました、なかでも東京同窓会は参加者百八十名にも及ぶ最も参加者の多い会で関東在住の同窓生の皆様の団結力、母校愛に敬服いたしました。

年号も「令和」と改まり東京オリピックが開催される年に川辺高校は創立百二十周年を迎えます。同窓会としましては「創立百二十周年式典実行委員会」を設置し、この記念式典を、令和二年十一月二十一日に挙行することといたしました。多くの同窓生にご参加いただき、盛大に実施したいものです。

ところで、創立百周年の折には皆様のご協力をいただき、記念事業として「神戈陵尚学舎」を建設し、創立百十周年では空調設備の整備を行

い、二十一世紀を担う有為な人材の育成に貢献しております。

西暦二〇二〇年に創立一二〇周年を迎えるにあたり、輝かしい歴史と伝統に新たな頁を加えるために、今回は生徒たちのより良い学習環境を整えることを主たる事業として①県内公立高校初のタブレット端末を使用した授業が出来る環境を整えること。②育英奨学事業を継続し今後も意欲ある生徒に対し奨学金を授与し激励すること。③部活動、芸術活動、通学環境、などの学習環境支援を計画しました。この事業を実施していくために募金目標額を二千万円と定め同窓生の皆様にご協力をお願いしているところです。

母校の揺るぎない歴史の足跡を忍びながら志し高き後輩たちの夢を叶えさせ、さらなる川辺高校の発展をはかるために同窓生一同、力を合わせて「創立百二十周年事業」を成功させましょう。みなさまのご協力によりしくお願い致します。



「生徒達へ先輩方の刺激を」

川辺高等学校校長 大山 尚人

今年の夏は九州南部の梅雨明けが七月二四日頃と遅くなり、川辺の夏も、梅雨明けまでは豪雨災害が一手前まで迫る状態に、梅雨明け後は例年の夏と同じく猛暑でした。この関係で七月二〇日開催予定だった知覧ねぶた祭りは中止となりました。

一方、七月二八日川辺祇園祭りは一六時からの開催にもかかわらず猛暑の中で行われました。川辺高校生も多数参加して、暑さに負けることなく地域貢献の活動を行っていました。

また、なぎなた部は全国高校総体の団体で二年連続五位入賞と健闘しました。今年は準々決勝で代表戦までもつれ込み、一対二の判定負けで、もう一歩でベスト4というところまでいきました。音楽部は県吹奏楽コンクールで選ばれて、南九州小編成吹奏楽コンテストに出場し、二年連続金賞を受賞しました。他にも部活動ではないですが、本校の二年生が馬術の障害飛越競技で全国二位になりました。ドイツで行われた合宿にも参加しました。生徒達が勉学だけでなく、

部活動等にも頑張ってくれていることを嬉しく思っています。

さて、昨年一二月の修学旅行の際は、生徒達と東京同窓会の皆様六名との懇談会が実施できました。生徒達は先輩方の貴重なお話を聞き大きな刺激を受けておりました。本当に有り難うございました。本来ならば六月の総会でお礼を申し上げなければならぬところでしたが、公務で出席できなかったことをお詫びいたします。懇談会を今年も実施できればと思っております。よろしく申し上げます。

また、帰郷の際には、母校へも是非お立ち寄りください。母校は皆様の来校を待っています。

最後になりましたが、平素から母校の教育活動に深い御理解と多大な御支援を賜っておりますことに対し、厚く御礼申し上げます。併せて東京同窓会の、今後益々の御発展を祈念いたします。



今年六月八日の四十三周年の東京同窓会に参加させて頂きありがとうございました。私自身川辺高校に赴任して六年目になりますが、東京同窓会に出席しますと、多くの人々に支えられて川辺高校があるのだという言葉を改めて痛感させられます。来年はいよいよ創立一二〇周年を迎えますが、川辺高校がますます活性化してほしいと強く思っております。さて、本校のなぎなた部は、鹿児島県で初めて昭和四十三年六月に創



東京同窓会に参加して — なぎなた部の活動 —

川辺高等学校教諭(保健体育) 高山 裕 司

部され、今年で創部五十一年目となりました。今年度は、二年生二名、二年生五名、一年生三名の九名で活動しています。それでは、今年の近況をご報告させて頂きたいと思えます。

今年のインターハイは、南部九州総体ということで、鹿児島県を主に熊本県・宮崎県・沖縄県で開催されました。以前、鹿児島でインターハイ開催されたのは昭和五十七年でしたので実に三十七年ぶりの開催となりました。総合開会式は鹿児島県で開催されました。残念ながら、なぎなた競技は沖縄県開催でした。

昨年、創部五〇年できるようく三十四年前の全国六位の成績を乗り越え五位という成績を残すことができ、今年はその結果を何とか追い越したいという強い思いで部員共々臨みました。昨年からすると、戦力が弱いと部員も承知の上で臨んだ大会でした。

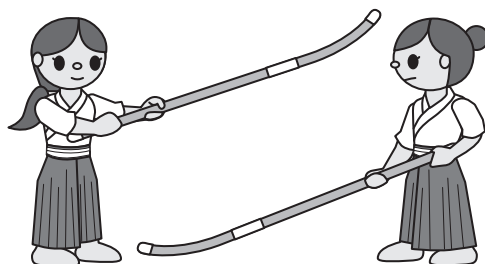
昨年は、高校生から始めた部員が三年生ということで、大会に出ても全く見劣りしないほど経験を積み実

力を付けていきましたが、今年が初心者部員がまだ二年生ということ、本人たちも非常に不安な状態でした。しかしながら、その不安を払拭するように主力メンバーが気合いの入った試合をするのを目の当たりにし、それにつられて初心者部員たちも今までに見たことのない気合いの入った試合をしてくれました。久しぶりに、試合の中でどんどん成長していく様子を見られて大変感動しました。気がつけば、準々決勝まで勝ち進み、インターハイ入賞常連校の長崎県立松浦高校と対戦となりました。一進一退の戦いが続き、両校から代表者を1名出して1本勝負をする代表者戦までもつれてしまいました。制限時間3分を過ぎても決着が付かず、2分間の延長戦となりました。しかし決着が付かず判定1-2の結果となり、判定で惜しくも負けてしまいました。たった旗1本の差で、目標としていた3位以上の結果を逃してしまい非常に悔しい結果となってしまいました。

来年こそは、本気で全国優勝を目指してキバっていきたいと思います。今後とも、変わらぬご支援と応援のほどよろしく願います。

〈追記〉

この秋の茨城国体で、なぎなた部は秋葉・上牧組が演技の部で準優勝、試合競技の部でも秋葉・上牧・村田組が準優勝と快挙を成し遂げました。おめでとうございます!! (編集部)



知覧町立中福良小学校、知覧中学校出身、昭和45年・川辺高校卒業の矢島寿史です。同年、東京理科大学に入学、48年に同大学を中退、現職の株式会社醸造産業新聞社に入社しました。以来、46年間、酒類産業界専門紙発行という仕事に従事しています。

「専門紙発行」という職種については、馴染みのない方がほとんどだと思いますが、当社の新聞は、一般紙と同様に「政治・行政面」「社会面」「国際面」「企業面」「商品欄」「家庭欄」に相当する様々な記事が掲載されており、存在しないのは「スポーツ面」と「テレビ番組欄」といってよいでしょう。ただ、あらゆる記事が「酒」ないしは「酒類業界」に関する報道だということなのです。

さて、本日は、「芋焼酎」はどういう性格を持つ酒なのか、一般紙でいえば「文化面」に掲載されるような内容について話します。そのためには、まず様々な酒の基礎知識を紹介しなければなりません、時間の制約がありますから、それを手短かに知るために、「お酒の工場はどこにあるか」を考えてみましょう。

この方法は、駆け出し記者の頃、

麻井宇介という技術者に教わりました。昨年、山梨・長野を舞台に日本ワイン造りに取り組む若者達を描いた「ウスケ・ボーイズ」という映画が公開されました。この映画は実話を元にしており、若者達の技術的かつ精神的な師匠でもあったのが、映画では橋爪功が演じた麻井宇介さんです。麻井さんとは、亡くなる直前まで親しくさせていただき、最晩年の書二冊は私どもの会社で発行させ

特別講演 「世界の酒と芋焼酎」

株式会社醸造産業新聞社

相談役 矢島 寿史氏

ていただきました。鹿児島大学農学部焼酎学講座・鮫島吉広教授とともに、私自身にとつては、酒の「製造」「歴史」「文化」などの面における師匠であり、大恩人でもあります。

酒の工場はどこにあるか。

ビールの工場は、東京周辺に集中しています。アサヒビールの神奈川工場、キリンビールの横浜工場、サッポロビールの千葉工場、そしてサントリーの府中ブルワリー。首都圏以外でもそうですが、広大な土地

を要するビール工場はなぜ、土地代の高い大都市周辺に位置するのか。それはつまり、ビールは鮮度が大切で、消費地になるべく早く届ける必要があること、もう一つは、工場に原料を運び込む運賃より、出来上がった製品の重量がはるかに大きく、輸送コストを抑える必要があるからです。ビールのアルコール度数は一般的には5度。ビールに限らず、お酒のアルコール度数は酒税法でラベ

ルへの記載が義務づけられています。が、では、残りの成分は何かといいますと、どんな酒でも、ほとんどは「水」です。エチルアルコールと水以外の微妙な成分が、それぞれの酒の風味を際立たせています。つまり、極論すれば、出来上がったビールを消費地に届けるということは、ほとんど「水」を運んでいるということなのです。

ワインはどこで造っているか。ワインと呼ばれるワイン工場は、

ブドウ畑に隣接するか、畑の中にあります。なぜかという、原料ブドウは保存も利かないし、痛みやすいので運べないからです。ワインナリーの位置を先に決めて、そこにブドウ畑を拓けばいいではないかという、そうはいきません。ワインは、あらゆる酒の中で、製造中に「水」を加えない唯一の酒です。ワイン中に含まれる水分は、ブドウの樹自身が地中から汲み上げて果実に蓄えたものであり、だからこそ、ワインは選ばれた風土、およびそこに適した品種に価値が生じます。従って、ワインの工場・ワインナリーはブドウ畑に隣接しているのです。

ウイスキーはどうか。ウイスキーは、スコッチタイプであれば麦芽が主原料ですが、発酵・蒸留してニューポットと呼ばれる貯蔵前の酒にするには大して時間ばかりませんが、製品として出荷するまでに長時間の熟成を必要とします。アルコール度数60度ほどで貯蔵しますから、それは危険物。人里離れた地に蒸留所がつけられるというわけですが、重量に対する価値が一般的には高い酒ですから、ビールのように輸送コストを勘案する必要はありません。

さて、九州を主産地とする本格焼酎はどうでしょう。日本酒の場合もそうですが、ワインほどに「風土性」が求められるわけではありません。それでも、それぞれの土地の歴史・文化を有する酒類であり、一般的に「地酒」と呼ばれる由縁はそこにあります。ただし、原料の農産物の性格により事情はやや異なります。米や麦などの穀類は、一般的に保存が利き、分配・輸送も簡単です。

余談ながら、人類が、穀物を主たる農産物に選んだことで、農業従事者以外の役人や商人や軍人が生まれ、都市や国家が成立するようになりました。これは穀類が「保存」「分配」「輸送」が可能だったからです。ところが芋は少々事情が異なります。保存が出来ません。つまり、将来、「地酒」という付加価値よりも、



消費地の近くで生産する経済効率を優先するという判断が、ほかの焼酎ではあるかもしれませんが、しかし、鹿児島焼酎が県外に工場を移すことはないでしょう。芋焼酎には、蒸留酒では例外的に「新酒」が存在する事実も、ここに理由があります。時代は、昭和から平成、そして令和へと移りましたが、昭和末期から平成にかけての「焼酎ブーム」は、酒類産業界にとって、今でも大きな影響の残る大事件でした。日本酒の「地酒ブーム」とは比べ物にならない規模で九州の本格焼酎が売れ、時を同じくして街で流行り始めたチューン居酒屋では甲類焼酎をベースにしたチューハイが爆発的に売れ、それまでの主力商品だったビール、日本酒、ウイスキーが激減したので

話はややそれますが、昭和61年に刊行された俵万智の歌集「サラダ記念日」。280万部のベストセラーですから読んだ方も多いと思います。収録された歌の中で人気投票されるなら、一番は書名に

使われた《この味がいいねと君が言ったから七月六日はサラダ記念日》でしょうが、次の歌もまちがいになく上位に選ばれるでしょう。《嫁さんになれよだなんてカンチューハイ二本で言ってしまったの》

このことを知らない世代も多くなったと思いますが、「カンチューハイ」という酒が登場したのは昭和59年で、それ以前は、存在していません。たった二年で一般名詞として通用するほど大ヒットした商品です。「チューハイ」とは、「焼酎」の「チュー（酎）」と、「ハイボール」の「ハイ」を組み合わせた造語で、原料の風味が残る本格焼酎（乙類焼酎）とは違って、連続蒸留器で造られた甲類焼酎をベースに果汁と炭酸を加えた飲みもので、東京の下町などで親しまれていました。

それを宝酒造という会社が缶に入れて商品化したわけですが、後にその会社の会長まで務めた方が、しみじみ語ったものです。「甲類焼酎も売れた。カンチューハイも売れた。あれほどのブームになった大きな原因の一つは、同じ焼酎として括られる九州産の本格焼酎と一緒に支持されたから。本格焼酎と甲類焼酎が同

時に売れたから、あれほどの爆発的ブームになった」。

焼酎ブームにより、極論すれば、「キリンビール」と「月桂冠」と「サントリーウイスキー」があれば、酒の商売は成り立つという図式が一変したのです。消費者が多様な酒を多様な飲み方で味わう、一人の人が場面に応じていろんな酒を飲むという状況が定着しました。その結果が何をもたらしたかというと、一番に挙げられるのは、ビールメーカーが多角化の道を歩み始めたということ。焼酎ブーム以前のビールメーカーは「ビール専業」でしたが、ワインや甲類焼酎の大手メーカーを買収、総合化路線にひた走ります。

いまや、アサヒ、キリン、サントリーといったメーカーはグループ売上げ2兆円を超す大企業で、様々な酒を製造販売しています。売上げ2兆円と言ってもピンと来ない方もいらっしゃると思いますが、トヨタ自動車、パナソニックのそれは8兆円。しかし、トヨタの主力製品は一台一〇〇万円以上の車、パナソニックの家電は一台五万円とか一〇万円の世界。一本一〇〇円とか二〇〇円のビールやカン

チューハイを主力商品とするビール会社が、食品業界においていかに大企業かがお分かりいただけると思います。

ウイスキーやワイン、カンチューハイ市場でも圧倒的な市場力を持つビール会社ですが、その力をもってしても「本格焼酎」では、大した力を発揮できていません。それは、「低価格でありながら、地酒ならではの付加価値を持つ」という二面性を、すでに九州のメーカーが実現しているからです。

ここで、自身の経験談を少々。現場記者の頃から様々な酒類を担当してきましたが、実は「本格焼酎」の専門記者として活動したという経験はありません。いくつかの理由があるのですが、一つだけ、当時の上司や同僚に言ってこなかった理由があります。本日は、同郷の人の集まりですから、分かってもらえると思いますので話しましょう。

私は、小学校二年の時に知覧町立中福良小学校に転校してきましたが、生まれは、大隅半島です。ご存知のように、同じ鹿児島弁でも土地土地によって微妙に違いますし、古い世代ほどその差は大きくなります。知

覧には、家族以外の親戚がいませんので、実は、目上の人に丁寧な鹿児島弁で話すことが苦手なのです。あのビールメーカーの何代か前の社長で、鹿児島出身の人がいましたが、彼は、方言のイントネーションがかなり強く残っている人で、酒席で話すのに苦労しました。よく誘われた麻雀の席で、興奮すると「んにゃ、しもた」とかいう言葉が飛び出しますが、当方は同じ調子で返せません。

いずれにしても、ちょっと丁寧な鹿児島弁、ビジネス用語としての鹿児島弁が苦手でした。なるべく鹿児島出張は遠慮していました。新聞記者という職種は、取材相手に気持ちよく話してもらおうのが大前提ですから、会話が自然でなければ目的を達せません。

ところで、プライベートの酒席で、名詞を出すことはほとんどないのですが、時折、お酒関係の仕事をしていることがばれた場合、よく「どのお酒がおいしいですか」と聞かれます。少しでも酒の品質に関する知見を口にしようものなら、議論を吹っかけてくる酒通の方もいます。ごく一般の人でも、「酒」に関しては、

それぞれの記憶があり、それぞれの好みがあり、少々ロマンチックな想いというものがあつたりしますから、「酒は何を飲むかではなく、誰と飲むかが大事ですよね」などと議論は避けることにしています。

ただ、様々な酒の歴史的・文化的背景を知り、様々な酒の香味の技術的背景を知るプロと呼ばれる人のほとんどは、日常、「普通の酒」を愛飲するということは知っていたのだと思います。純米吟醸酒しか置いてない寿司屋に行った時、希少銘柄と呼ばれる高い芋焼酎しか置いてない料理屋に入ってしまった場合、メニューに眼を落とした後、店員さんに「普通の酒はないの」と聞くのが、いわばプロ達の口癖と言っているかもしれません。繊細な白身魚の刺身に、香りの強すぎる純米吟醸酒を無理に合わせることを、また、希少だからという理由だけで値付けが高い芋焼酎を飲むのを「よしとしなさい」のです。つい先日、今日の講演会に向けて少しばかり確認したいことがあったので、東京神田の飲み



屋さんと鹿児島大学の鮫島先生と一緒したのですが、芋焼酎は希少銘柄しか置いてない。例によって「普通の芋はないの」と店員に確かめた後で、「今日は日本酒にしましょうか」と鮫島さん。そこで、ズラーと並んだ吟醸酒や純米酒を通り過ぎて、一番下の本醸造酒をぬるめの燗で頼んだところ、鮫島さん曰く「これは、いいですね」。実は、その一言が狙いで、その店に案内したのですが。

最後に、世界の酒の中で際立つ芋焼酎の特徴をもうひとつ。芋焼酎は、70〜80度ぐらいのお湯で、六・四で割るのが美味しいとされていますが、これは、温度ごとの揮発成分や甘味の感じ方など、ほぼ科学的に証明されています。さて、アルコール度数25度の焼酎を六・四で割った場合のアルコール度数は約15度で、これは、



日本酒やワインとほぼ同じです。温度は42度前後となり、これも日本酒の場合の「ぬるめの燗」とほぼ同じ。これが、蒸留酒でありながら（日本酒やワインは醸造酒）「食中酒として通用する」という、世界でも珍しい酒文化を育んだ理由です。

【講演会・後日記】 講演会当日は、最後に質問をいくつか受けました。そのなかで、本会・前々会長の大平政弘様から「宮崎県の霧島酒造は、一年を通して造るとい判断をしているようですが、その背景は？」という質問がありました。よほどの事情通でなければ出てこない専門的な

質問があったことに少しばかり驚きました。さすが大平さんです。また、少々戸惑い、その場ではあやふやな答えをしてしまいましたので、ここで補足したいと思います。

芋焼酎や日本酒の世界では、四季醸造という判断をしない限り、杜氏とか蔵人と呼ばれる「季節労働者」にある程度頼らざるを得ません。日本酒の場合は、原料は保存が利く米です。温度管理など工場設備の投資を判断できれば四季醸造が可能です。しかし、芋焼酎の場合は、原料を保存できないので、それをどう解決するかという課題が残ります。つまりは、「原料を冷凍する」というのが四季醸造の前提になるのです。大平さんの質問に戸惑ったのは、「芋は保存が利かない」というのが、講演主旨のポイントの一つだったので、それと矛盾する「冷凍芋」の存在にふれることに、あの場では、ためらいが生じたからでした。

霧島酒造は、「冷凍芋を使用して、一年を通して醸造・蒸留している」ことを公言しています。最終品質に自信がなければ、この決断は無理でしょうから、「トップメーカーの果敢な挑戦」といえるでしょう。

ただ、この場合が、以下で述べることに当てはまるかどうかは別にして、「酒の風土離れ」に関して、少し補足しようと思います。

元来、どんな酒であれ「地の酒」として生まれた酒は個性が強過ぎるのが一般的です。生まれ育った土地以外の人々にも飲まれるようになるためには、ある程度の「風土離れ」が必要で、そのために「技術」を使うこととなります。ただし、技術を使い過ぎて「風土離れ」し過ぎると、個性をなくし過ぎて、人々に感銘を与えられる酒から遠ざかってしまいます。そこで、私の師・麻井宇介さんは「洗練化」という言葉を使って、「風土離れせず、個性を洗練化させることで酒質を磨く」と、酒造りの目指すべき方向を表現しました。

芋焼酎の酒質の変化について、かつて福岡の著名酒屋の店主がこう言いました。「昔の焼酎は癖があつて良かったと言う客がいます。しかし、一般的には、昔の焼酎は、造りが粗雑で、油の膜が浮いたような酒も少なくなかった。造りの稚拙さと個性はまったく別物です」と。つまり、酒造りにおいて、どこまで新技術を使うかは、大げさに言えば造り手の

思想・哲学の問題です。その狭間で、酒の造り手は、日夜、研鑽しているのです。

ちなみに、鹿児島県の薩摩酒造は、冷凍ではなく、糖化した芋を「土室」（つちむろゝ土に埋める）で一定期間保存するという技術の特許を取得、一部製品に採用しています。目的は「保存」だけではなく、「原料由来の甘味を引き出す」効果もあり、これも「酒質の洗練化」の一つの例といえるでしょう。



陵友だより

出会いは楽し

昭和三三年卒 田口精一

「幕切れが勝負なんだよなア」宇野(重吉)さんが、ポツリと言った。「お客様様の心の動きに合わせ、静かに幕を下していく。お互いに人生を慈しむ様に。一公演に何回あるか……」そして、続けた「お前、友達と呼べるのいるか」応えようと息を吸ったら「うん。大事にしろよ」嬉しかった。

科学の進歩で、人間以上に役立つ機材が色々に対応してくれ、友達よりもスマホ無しの生活は考えられない。というより、スマホに支配され、今や発明した人間が彼等の奴隷つてわけ。

あれ程苦勞した普通語の習得も忽ちクリヤー中央と同じ文化人になれたのはよいが、事件まで同化してしまった。親による幼女リンチ殺人事件が、わが故郷で発生したとの報道に衝撃を受けたのは私だけか？「敬天愛人」が継承されていると思う方がおかしいのかも知れないが、私は

ドキリとした。

先の事件で命を奪われた幼女が、懸命になって覚えた平仮名で初めて綴った親へのメッセージが命乞いであった。ニュースに目が止まらなかったのか。対応する、お役人の姿がこれまた、中央官僚そっくり。此処まで来たか。

「死」の存在を知ったのは愛犬との別離だったと記憶する。命を奪った者への怒りは、夜店で買ったヒヨコを目の前で猫に攫われた時。忘れないう。同時に蟻の行列を踏み潰し逃げまどう彼等を見降して、勇士気分になっていた私の姿。

まさか、10年後、米軍機に狙われて必死に逃げ回るとは皮肉なものだ。獲物を求めて機上から見下す米兵の姿も忘れないが……住民の退路を絶って効果的に殺戮する……戦術を考へ出した指揮官に、被害者の日本政府が勲章を贈って感謝。反米思想の触発を防ぐ為と称して……戦没者追悼や建造物の建立は厳禁と……GHQの指令が出ていて、監視下にあったと言う。彼等は、矢張り恐れていたのだ。

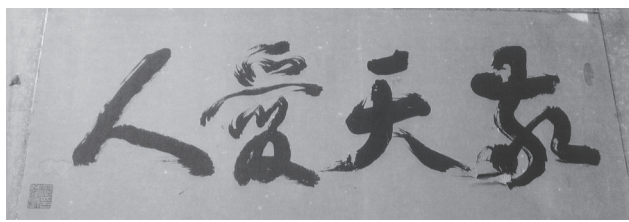
戦争終結を早め、本土決戦による相方の大量の死傷者の発生を防いだ

原爆攻撃の正当性を今も信じ疑わぬ米国民が半数近いと報道されても被爆国の政府は米軍の庇護に感謝している。美校に入り、ピカソの「ゲルニカ」がナチス・ドイツの無差別攻撃に抗議した作品と知った時も……爆弾より焼夷弾による都市部への夜間爆撃の方がより効果的……との英国の作戦を戦争犯罪と非難した米軍が転向。日本本土攻撃用の新型弾を開発、使用した事は知らなかった。

戦後、伊丹万作氏が……騙されたと豪語する者は必ずまた騙される……と告げた。

知ろうとしない人間は加害者となることの警告は今も生きています。生き残りとしては、黙っているわけにはいかない。

戦後上京し焼け残った下宿屋の二階で、励ましあった仲間が全員他



界の人となったが、酒句譲と私に初めて自身の原爆体験を語ってくれたヒロシマの男は健在。今年も「語り部」を続け私共の市の子供達がお世話になっている「充分、生きたけエ、お返しせんとのオ」と大きく笑う。大事な友だ。素敵な出会いに恵まれた幸運は、まだまだ続く。三月は「東京大空襲」のお陰で、また新しい友達が増えた。さて、わが幕切れ、どうなりますか……

「南薩の青い空の下に」

川辺高等学校創立百周年昭和二十五年卒業文集(戦争を体験した少女少女達の記録)を読んで

昭和三八年卒 上之温代

同窓会での私の楽しみは、本の文章を書かれた先輩たちに会ってお話が聞けたことです。陵寿会も楽しいでした。「興南」の冊子では室屋数盛さんと校正しながら、たくさんの先輩方の活躍を知ることができました。八月は元号が変わったせいなのか、戦争事実の新たな報道、映画、投稿記事、戦地での経験を語る映像が多かったです。記念文集を読むと、多感

な生徒達の戦争体験談、残された家族への思い、戦後の日本の復興に、懸命に働かれたことなどが、身近に伝わってきます。

五月にアウシュビッツ強制収容所跡を訪ねました。欧州では、ナチスによって六百万人以上のユダヤ人が殺戮されたと言われる。職員の人人ガイドの方が「遠い日本からこの地に来られた。ここで行われた事実を、若い世代にも伝えてほしい。今何ができるか、考えて行動に移して下さい」と話された。重い課題に、歴史の無知と、深く考えなかった自分を後悔し、無言で帰ってきました。ポーランドで生まれたシヨパンの故郷は緑あふれる大平原の国です。侵略を逃れて、パリで作曲したシヨパンは生涯故郷を思いながら美しい歌曲やピアノ曲を作曲したそうです。

な死を遂げた」と文集にあります。

また、ジョギング仲間昭和七年生まれ元会長は「家族みんなが健康であるようにと、四十七年間活動が続いているよ」と、公園を走りながら色々なお話が聞けて楽しいです。今、私達は、自然災害、環境破壊と汚染、核兵器、原発事故など不安な状況を抱えています。「戦争を知らない豊穰の時代に育った後輩たちはこの記念誌の記事をどう受けとめるであろう」と(大倉野貞俊さんのお言葉)すばらしい記念誌ありがとうございました。そしてきつと生きるための葉にしていけます。

思いのままに

昭和四一年卒 荒木チヨ子
高校を卒業してから五十四年の歳月が過ぎた。

今、思い起こすと、よく三年間頑張ったと自分を褒めてあげたい気持ちになる、というのも、私の家は川辺高校から遠く、通学には通常バスを乗り継ぎながら通っていたのだが、朝補習がある時だけ自転車で一時間以上かけて通っていた。

坂道が多く、下り坂の時は楽だが、登り坂となるととても乗ったままで

は登れないので、歩いて押上げる事になるので大変だった。

雨が降ったら、石ころだらけの道に足をとられ転んだこともあった。

でも、密かな楽しみもあった。暑い日に土手から流れ出る清水を手ですくって飲んで美味しかったこと。今となっては懐かしい思い出だ。

テレビのニュースで戦後七十四年。令和になって初めての終戦の日というのを聞いて、今は亡き母から聞いた知覧特攻隊員の話の思い出した。

二十歳に満たない若者達がお国のためとたくさん戦死した話。

その中で印象に残った話がある。母の実家近くで野営していた若者の一人が、ある日訪ねて来て、「明日出撃します。飛行場を飛び立ったら、この辺りを通る時、三回旋回しますので見送ってください」と言って帰っていったそうだ。

翌朝、音が聞こえたので空を見上げると、三回旋回して開聞岳方面へ飛んで行ったという話。

知覧特攻平和会館を見学すると、そのことが思い出されて戦争の残酷さを思い知らされる。

今でも、世界の何処かで戦禍に見

舞われて、辛い日々を過ごしている人々がいる。

戦後生まれの人が多くなり、戦争中の話ができる人が少なくなる中、語り継いで子や孫に伝えていく必要があると思う。

埼玉県の青少年推進委員会のボランティアで地域の子供達と接する機会があり、平和の大切さを教えたりしている。

いつまでも子供達の笑顔の見える世界になって欲しいと思う。



伊能忠敬が「天下の絶景」と絶賛した番所鼻より開聞岳(薩摩富士)を望む

目、眼、め、メ

昭和四五年卒 有菌茂矢

東京同窓会の皆様にも眼の手術をなされた方、また今後なされる方が多いと思います。しかし、私のように十回も経験するひとは稀でしょう。あくまで一例としてご参考までにご拝読願います。

私は、少年期の近視を除いては特に眼が悪いと思つた事はない。最初の眼の異常は30歳を超えてすぐの頃だった。当時は若く、体力も気力も旺盛で連日の徹夜だった。それもコンピュータソフトウェアの技師だったので、ブラウン管のディスプレイをにらんでの仕事である。仕事が一段落ついたので少々休んだ時に右目が霞むのに気がついたら。顔を洗つても目薬さしても変わらない。でも疲れのせいで、日がたてば治まるだろうと余り心配してなかった。ところが、日が経つにつれ目のカスミが増すのである。眼科に行くと白内障との診断で、大学病院を紹介され直ぐにその病院に行く。確かに白内障だが、まだ若いので合点がいかない、検査しようということになる。原因としては、放射線を浴びる、眼の外

傷を負う、強電磁波に晒される、等が考えられるという。私は、ブラウン管の見過ぎくらいしか思いつかない。結局は原因不明で水晶体除去術が必須と言う。ただし半年先まで病棟予約が一杯なので、異なる大学病院で直ぐに手術した。これから、まさか10回も手術する事になるとは思つてもいなかった。

① 第1回目目の眼の手術

東京の某大病院経由の同じく東京23区の某大病院で右眼を手術した。40年近く前ですが、白内障の手術自体は、さほど珍しくなく、通常は5分間程度で終わるはずが、3時間ほどを要した。途中で記録と言うか実験材料と言うか、やたらフラッシュを焚いて写真撮っていた。目薬だけの麻酔ではなく、眼の裏まで届く注射の麻酔でしたが、全身麻酔ではない。うっすら回りが見えるし、声は聞こえる。一週間ほど入院したが、眼のカスミは緩和されたものの完全ではない。水晶体除去したが、それを包んでいた膜がこびり付いているのだと。退院して様子みだが、あまり進展なし。この頃、日本に数台しかないレーザーで邪魔者を焼き切る機器があるとの事で、上述

の助教授と一緒に赴き、助教授自らがレーザー操作すると自信満々だった。

② 第2回目目の眼の手術

レーザーによる水晶体付随の邪魔者の除去は、私の眼の検査、計測をして始まった。5分間くらいで、嘘のように目のモヤモヤが無くなった。入院こそしないが、これも手術なので、術後1時間ほどは化膿止めの抗生物質等が入った点滴をした。これで右眼は完了、いまだ右眼は手術なし。眼内レンズなし。ただし、10年後くらいに左眼も白内障になると言われた。

③ 第3回目目の手術(以降は全て左眼)

約10年が経過した頃、私は大阪に赴任していた。前の眼科助教授の予告通り左眼がかすんできた。もう慣れたものとはばかり、近所の評判の眼科に行ったら手術する事になった。ただし小さい医院では無理なので、その眼科医と大病院の医師と二人で大病院で手術となった。家内には心配ないから昼飯頃に来れば丁度良いと伝えていた。ところが、手術開始して1時間ほどして様子がおかしい。進展しているようにも感じず、二人の医師がヒソヒソ話を始めた。そして、私に言う事には、思わぬ展開になり、

手術器具も足りない、故に異なる大病院(大学病院からの医師も一杯いる)に救急車で運ぶと言う。私は拒否する勇氣はないから、まかせられない。とりあえず取り出した眼を収め、仮縫いしたと思われる。手術台の上に白い布を被せられ、救急車で運ばれ到着した病院でストレッチャーで転がされている。他人目からは、私は布を被せられた怪我人だから、私にだか不明な不気味な物体だっただろう。この頃、丁度昼前に家内が、私のいるはずの病院に着いたらしい。ところが、居ないし、婦長(現部長)にかけあつて、ようやく異なる病院に向かつたらしい。振り返ると笑い話だが、その時は不安の上ないと思う。

④ 第4回目目の手術(一日の2回目)

異なる大病院で手術再開された。後日判つたが、医療保険上も病院の見方も別の手術だった。高名な眼科医が外来患者を別の人に任して、私の手術に当たってくれた。なぜか、前の病院からの二人の医師は手術に立会っていなかった。一応、無事に済んだ。病室に運ばれた時、前の病院からの二人の医師も心配そうに待っていた。その時は、朝食抜きで臨んだ手術が昼飯も食えず夕飯に近

い時刻だった。腹減って気分最悪だったので、あまり会話もせずに飯を食ったが、配慮に欠けたか、家内も呆れていた。後日、二人の医師を訴えたらと言う人もいたが、無理な手術を続行せずに妥当な判断だった。未熟さに感謝はしないが。

⑤第5回目の手術

前回の手術から約一ヶ月後、ちょうど花見の時節だったので花見した。酒量もさほどでなく、眼をぶつけてもいないのに目に違和感がある。痛くも痒くもないが、フワフワしている感触だった。

翌日、4回目の手術した病院に行ったら某高名医師が、慌ててすぐに手術である。さほどの時間はかからず終了。前回、一日に2回も困難な手術をし眼を入れたり出したり、ひっくり返したら眼の縫合も緩むとの説明。事無きを得たが、空きのない病室に前回に続き無理に入院。この後、約10年は手術なし。

この時点では、左右の眼とも眼内レンズ（人口水晶体）も入れていない。無理な手術だったし、眼内レンズが、まだ今ほどは確立された方法でなかったのかも。

それから10年。特に眼に不満ない

ものの冬の乾燥期になるとコンタクトレンズが不都合と感じた。すぐに眼が充血して結膜炎状態になるのだ。ちょうど、会社の仲間から以前の手術時に入れなかった眼内レンズを入れるだけの手術したと連絡あった。以前は約10万円だったレンズも健康保険が効いて安かったし、手術に医療保険も出たと聞き手術を決断した。

すぐに会社の健康管理室の医師に私の眼の遍歴を説明し、超有名な眼科医への紹介状を書いてもらい某大病院へ行った。右眼は、昔の無理な手術したようだから、眼内レンズを入れる為には危険でやめた方が良くと言う。左眼は手術決定。

⑥第6回目の手術（以降は全て左眼）

2泊3日の予定で入院し、火曜日に手術した。執刀医は、教授で日本で五指に入るらしい。普通に手術したが、術後2時間後に眼を見た教授がレンズが動いてズレているので木曜日にやり直しと決定。

⑦第7回目の眼の手術

木曜日の手術は入念に確認して真ん中にある事を確認して、手術を30分程延長し、レンズ位置正常を確認して手術終了。ところが、2時間後にはズレている。次の手術日は翌週

火曜なので、作戦変えると教授談。私の眼が柔らかく眼球が動き固定が難しい。故に眼球を固定する手術器具を使って固定する。

⑧第8〜9回目（翌週火曜日と木曜日）の手術、2回とも失敗

強力な器具使いつつ複数医師で固定を数回確認しつつ手術終了するも2時間後にはズレる。手術歴2万回を超える教授が愚痴った。「あなたを好き嫌いではなく、患者と医師の相性と言うか、普通で問題ない時と、どうしても上手くない時がある。」

一旦、退院して再検討する事になった。何処かの大病院から特別に私の眼のために医師を呼んで、教授と特任医師と主治医と私で検討約一ヶ月。眼の中や外のサイズ計測、各種検査もした。

⑨第10回目の手術

眼内レンズの固定がうまくいかなので虹彩に縛りつける事にして手術完了。2時間後もズレていない。ただし、虹彩に縛りつけているので歪んでいる。乱視がひどい状態。後は時間が解決すると。

退院して徐々にマシな見え方になりましたが多少の歪みは残っています。でも経過からすれば良く見える

ものだと感謝しています。両眼でせいぜい視力0・3ですので、運転免許不可ですが満足です。

最後に記しますが、私の眼が変わっているだけで、普通は白内障の今の手術は簡単です。まず、手術前30分前くらいに眼薬をさします。これが麻酔です。手術室で点滴器具を装着して、自分の手術の番を待ちます。まるで理容室や美容室で待つのと変わりません。BGMが流れている所もあります。手術の順番になったら理容室のような上下に動くイスに移動し、まるでシャンプー前のように布を被せられ、手術する眼だけが見えるようになります。目薬の麻酔は少量づつ勝手に流れます。手術は眼の黒目の隅に2〜3ミリの穴を空け、そこから水晶体まで伸ばし、濁った水晶体を吸い込みます。で、そのままの状態から医師の操作で、折りたたんだ眼内レンズを引っ張り、棒を抜くと眼内レンズが開きます。すると、もう、ハッキリクッキリ見えるのです。これで手術完了。5分とかかりませんが、日帰り手術の所もありますが、感染症が怖いので、2泊くらいが妥当かと思えます。

私とロータリークラブ

昭和四一年卒 有菌純一

(鹿児島市在住)

川辺高校関東同窓会は地域の同窓会として積極的に活動をしていると聞いています。私も平成7年から10年まで南日本銀行の東京支店長時代に、三州クラブや関東同窓会にも出席していた事を思い出し、同級生の橋本さんや峯苦君からの依頼もあり、長年ボランティア活動しているロータリークラブについて、話してみたいと思います。

ロータリークラブは1905年アメリカのシカゴで誕生し、日本では1920年に創立された東京クラブが最初でした。現在200以上の国と地域に35,729クラブ121万人の会員があり、日本には2,270クラブ89,500人の会員がいます。うち鹿児島市は11クラブ434名です。ロータリークラブは日本最大の奨学金組織であると同時に、ポリオ根絶に向けた最大の支援組織であるにも関わらず、ライオンズクラブと比較して、その存在は知られていません。それぞれの地域の経営者・支店長や医者、弁護士など専門的職業に従

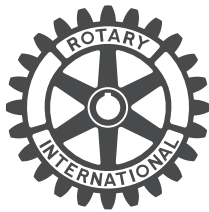
事している人で、社会のために何か役立ちたいという心を持つ人なら誰でも入会資格があります。

ロータリークラブは多くの友人を作り、会員相互の親睦を第一義とした団体です。友と語り合い、学び、信頼を深め、有益な情報を交換し、自由に意見を交わすことができる団体です。

会員の奉仕活動は各人の職業や、社会、家庭を通して実践されます。

また地域社会の弱者への手助けや、青少年の健全育成や国際理解のため、奨学生の交換や派遣など様々な奉仕活動を行っています。

私は1987年に指宿ロータリークラブに入会し、2005年に鹿児島



Rotary

鳥県で最も歴史のある鹿児島ロータリークラブに入会させて頂きました。山形屋、南国殖産、鹿児島銀行、南日本放送など企業の経営者、日本銀行、NHK、九州電力、第一生命保険等の支店長、弁護士や

医師が主なメンバーで毎週金曜日に山形屋の例会場で会員卓話やゲストの卓話を聞き、ロータリーとは何かを少しずつ学び、花見や地区大会、クリスマス家族会で楽しさを経験しました。先輩会員から「ロータリーを理解するには、まず毎週の例会に出席する事、様々なクラブの行事に積極的に参加する事」と教わり、出張や仕事が忙しくホームクラブの例

会に出席できない場合も、他のクラブに出席するなどして今年で14年間毎週の例会に連続出席を重ねています。鹿児島クラブの会員と健康に産んで育ててくれた両親にも感謝です。

ロータリーを学び、奉仕活動をする事で、多くの友人知人を知り、銀行を定年退職してからも、リース会社の経営やケーブルテレビ会社で経営の手伝いが出来ているのも、人の縁に助けられていると思います。

鹿児島ロータリークラブでは2013年度に幹事、2016年に会長を経験し今年度は鹿児島市内11クラブのガバナー補佐を引き受け、毎月各クラブを訪問してロータリーの目的を勉強し、クラブの目標達成を手助けすることで、新しい交流も始まりました。

さて同窓会について少し触れますと、8年前に川辺高校同窓会の招きで現役の高校生に何か話して欲しいと、当時の大坪同窓会長から依頼がありました。確か「地域金融に生きる」とかのテーマでしたが、高校時代は勉強も大事だが、友人を作りなさいと呼びかけました。

定年後の人生を豊かにするには、いかに多くの友人がいるかだと私は思っています。中でも20数名の地元に住んでいる高校の同級生とは年に4回のゴルフ、同じ頻度の飲み会を定年前から始めて、そのゴルフコンペも来年1月には50回開催を迎えます。

大学の同じ寮の仲間とは年に1回二泊三日の旅を13年継続しています。銀行の仲間とも年に一回旅行やゴルフを楽しんでいます。これに加えてロータリークラブの仲間もいます。

趣味は陸上長距離の観戦で冬の駅伝シーズンになると、鹿児島県内だけでなく九州の高校駅伝、全国の大学駅伝、実業団の大会とあちこち見に行きます。

これからも健康が続く限り、私の趣味である陸上競技の観戦と、友人との旅やゴルフ、ロータリークラブ活動を楽しくしていきます。

これからの健康が続く限り、私の趣味である陸上競技の観戦と、友人との旅やゴルフ、ロータリークラブ活動を楽しくしていきます。

「故郷の祭り」
知覧ねぶたの起こり

昭和四一年卒 峯 苦稔三
「やーやどおーやーやどおー!!!」

その熱気知覧の大地を揺るがす!!!

知覧ねぶた祭りは、毎年7月第3土曜日夕方に開催される。この晩の知覧の町は青森ねぶたで天と地が割れんばかりに熱気と人混みで溢れかえる。そして、今年で24回の祭りが、開催されてきた。

なぜ本州北端の青森のねぶた祭りが、車道で2000kmも離れた九州南端知覧に発祥し根付いてきたのか? それには、青森県平川市(旧・平賀町)の高校2年生の、南国知覧でねぶた祭りを運行して観てもらいたい」と言う少年の燃えたいさの思いからでした。

平成2年平賀町の地域づくり・リーダー研修がきっかけでした。平賀町が鹿児島県に研修先を問合せしたところ、知覧町が紹介された。この研修が、ホームステイ型の相互派遣事業へと発展してきた。平成4年知覧町の農家(筆者の友達)に、ホームステイに訪れた高校2年生の男子生徒の思いからです。その少年は、

自分が持つてきたねぶたの絵柄、武者絵”を取り出し、毎晩のように青森ねぶたを熱く熱く語ったそう。

その少年の熱意が、平賀・知覧町の関係者を動かしたのです。平成8年8月7日知覧町から3人の方が、平賀町のねぶたの視察で訪問した。

そして、すぐにでもねぶたを知覧に持ち帰りたいとの気持ちだが、平賀町ねぶた会長の心を動かした(裏話…会長さんは、知覧が北海道のどこかだろうと安請け合いましたそうな!)。直ぐに知覧でねぶたを運行するため、プロジェクトを立ち上げ、平賀町からねぶた作成の木工・電気技師・踊り指導者など10人以上の方が知覧を訪れた。そして、

平成8年8月25日の絶好のお祭り日和にその時が来た。「第一回平賀町ねぶた祭りin知覧」が平賀・知覧の二つの町の熱い協力で開催できた。当日は知覧町内外から、3万人(現在は4万人に増加し、かねてはほとんど人影を見かけない知覧の町が正月のアメ横状態になる)の観光客が訪れた。

祭りが大成功裏に終わり皆な喜び合っている中で、当日平賀町から駆け付けた踊り連の中に感極まって

大きく泣き崩れる青年がいた。その人こそが4年前の高校2年生「阿部淳さん」今は「昇龍」の号で立派な武者絵師になっていました。

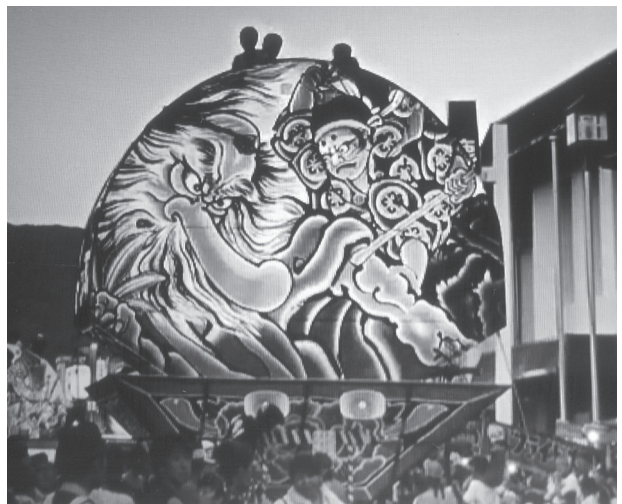
昨年平川市ねぶた祭りでお会いでき、知覧での思いを語り合ってきました。平川市のねぶた・青森のねぶた・五所川原の立佞武多(たちねぶた)を見てきました。青森県民が短い夏を燃え尽きるような、熱気を本場ねぶた・ねぶたで感じてきました。

知覧の扇ねぶたは、大小7基で運行されます。規模は本場に比べれば小さいですが、山椒は小粒でも辛い」と言われるように、盛り上がり」と熱気は本場に引けを取りません。そして今も、ねぶたの交流は続いています。

皆さん機会があれば、郷土の知覧ねぶた祭りで青森ねぶたを体感してください。



扇ねぶたの裏面の見送り絵 (妖艶な美人画)



扇ねぶた表面の鏡絵 (武者絵)

私の作品展



三七年卒 蔵前祥子

へたでいいへたがいいの言葉に
 勤がされ始めた絵手紙
 季節の草花、四季の行事、教室の
 テーマ等々。素直 素顔 素朴に
 その時心を感じたことを描く。へ
 タでも私らしさが出ているへたに
 励まされながら筆を取っている。



「人見知り」 (3年 菊永 真子)



「凍夜の虚無」 (3年 菊永 真由)

一溪父老
 弟の習者も遠松
 形似難ま致到
 平地蓬来 彩

「李太白憶旧遊詩卷
 (りたいはくおくきゆうゆうしかん)」
 (1年 堀之内 彩)

天漢三年十月
 陸長迷踪居平
 聖其十石五年

「木簡(もっかん)」
 (2年 木村 青空)

變級
 陳黃
 之龍
 昌夷
 德木
 鼓木
 示建
 之甘
 昌露
 好之
 運珠
 不動
 漏順
 丙經
 成古
 不先
 嚴心
 昌符
 博守

「西狹頌(せいきやうしよつ)」
 (1年 野沢 琉月)

解肉
 喪中
 弱會
 陳信
 十三
 帽須
 米解

「天発神識碑
 (てんぱつしんしんひ)」
 (2年 清水 梨花)

色渾沌不
 道徳之者
 成先天地
 与體也道
 冥遲速固
 得而未天
 永久焉斯

「臨 趙之謙
 (りん ちようしけん)」
 (2年 有園 美玖)



神戈陵 俳壇・歌壇

前橋 竹之 (昭和二五年卒)

- 一. 大空の芯まで梅雨の明けにけり
- 二. 夕空へ天女の晒す虹の帯
- 三. 飢餓の子のけふも何処かに終戦日
- 四. ふるさとの軒の先まで稲の波
- 五. つくつくし暮れゆく空へ鳴きつくす

大平 政弘 (昭和三四年卒)

- 一. 短夜や夢に入り来る鶏の声
- 二. すれ違ふ母子に湯の香蜜の夜
- 三. 宿下駄の馴染まぬうちに初螢
- 四. 鮎の川黙の編み笠点々と
- 五. 地に螢天に明星故郷かな

畠野 修一 (昭和三六年卒)

- 一. 乙女らのはじける声や春の宵
- 二. うたた寝の目にさわさわと青簾
- 三. やわらかき風とたわむる曼殊沙華
- 四. つかの間の淡く消えゆく冬の虹
- 五. 茶畑の延びゆく先に薩摩富士

南谷 恒英 (昭和三六年卒)

- 一. 通学路老女立ちおり雪の中
- 二. 野菜売る小屋に日焼けし農婦かな
- 三. パラソルに動かぬ二人九十九里
- 四. 櫓上に立つ卒寿翁の盆踊り
- 五. 油蝉声を限りに原爆忌

森山 昭利 (昭和四一年卒)

- 一. 新緑に黄金纏うや金糸梅
- 二. 柿はまだ緑の葉陰まどろみつ
- 三. 金色の小鳥舞い飛ぶ大イチョウ
- 四. 山茶花の花散り敷きて雨あがる
- 五. しんしんと冬の重さやツバキ落つ

有園 茂矢 (昭和四五年卒)

- 一. 松籟を隠して烟る春霞
- 二. 暑きかな東雲すぎて眠りつく
- 三. 冷えてなほ飲み続けるは秋の珈琲
- 四. 目は濁り毛も齒も抜けて秋ぞ来る
- 五. 田の水に田の神写しカエルかな

神戈陵 俳壇・歌壇



橋本 起世子(昭和四一年卒)

故郷の岳を詠む ペンネーム稔峯(昭和四一年卒)

一. 夏の夜の墨田の空に散りばめた

一. 悠調な故郷の詞た知覧節

彩とりどりの宝石の花

百首の初めに大隣岳

二. 嵐さり雲ひとつなき青空に

二. 薩摩富士幼き頃の胸の内
いつの日にか立たんと思う

残月のあかり儚くうかぶ

三. 小京都武家屋敷の枯山水

三. 故郷の母と慕いし人逝きて

母ガ岳が良く映え出る

悲しき心に笑顔残りし

四. 亡き母の想い出の丘永谷の
急な坂道エンジン吹かす

四. 手を合わせ無心に祈る君の背に

五. 金峰と野間岳との背比べ
古の世の国造りかな

光り輝く雨上がりの陽

五. 人々のそれぞれの想い交差して

出会いと別れの空港ロビー

六. 地下鉄の階段のぼり見上げた空

君も見しかな十三夜月

七. 時を経てまた巡り会いし君を待つ

そつと寄り添う石路の花



日陰に咲く石路の花



知覧上郡通りから母ガ岳を望む

年度幹事より

昭和五十一年卒業

下之薗ルリ子

第43回川辺高等学校東京同窓会は昭和51年卒が年度幹事でした。当日は51年卒5人と41年卒、50年卒、役員の方々の協力のもと無事に大役を終えることができましたことに感謝申し上げます。

今年度は、新しく元号が「令和」となり、初年度の幹事でもありました。前回の年度幹事の時は、大勢の同期が集まり役割を果たすことができました。あれから十数年がたち早いもので昨年還暦を迎えました。今回170名余りの参加がありました。案内を出してから欠席の連絡が出席者を上回る勢いでとても不安でしたが当日になって多くの方の参加があったのでホッとしました。毎回企画されている講演会を見聞きして思うことは、母校には素晴らしい先輩や後輩方がおられることに同じ同窓生として誇りに思います。今年の特典公演には、昭和45年卒の矢鳥寿史氏より「世界の酒と芋焼酎」というテーマで講話がありました。普段の生活に身近に接しているお酒の話は、知っていてもなかなか知らない、とても奥が深い話でいつの間にか聞き入ってしまいました。会場はすっきり『矢鳥酒造』の仕込みに酔わされあつという間に時間がたっていました。その後、ほろ酔い気分総会へと場を移しました。総会においては、東京同窓会の小原東洋明会長からのあいさつではじまり、平成30年度の役員の方々からの会務報告、会計報告、同窓会会則も現状に即した会則の一部変更等についての報告があり、いずれも意義なく承認されました。また、今回は役員改選もあり新会長として小原会長から森山昭利新会長へバトンが渡されました。小原会長！、大変お疲れさまでした。新たな時代と共に森山新会長どうぞよろしくお願ひいたします。急速に進む少子高齢化の時代に突入し、この川辺高等学校東京同窓会の参加者の年齢層も高くなってきました。昨年還暦を迎えた今回の年度幹事は、そのような中でもまだまだ若いほうにはいるかな。まだまださきばらんといかんね！と盛りあ

げなければと自分に言い聞かせながら総会の総合司会を務めました。今回の総合司会には、昭和50年卒の畠中耕一さんに協力していただきとても心強かったです。

懇親会においては、母校より前田教頭先生、高山先生においでいただき、母校の様子をうかがうことができました。タブレット端末を使用した授業の紹介や教室にはクーラーが設置されたりと生徒の教育環境も現代社会に沿って整えられともうれしい報告が聞けました。いづれも当時は想像つかない教育環境整備は、つくづく時代の流れを感じてしまいました。

「乾杯」を皮切りに、なつかしい本場の「つけあげ」についつい芋焼酎がすすみました。友との語らいはさ

らにはずみ恒例の踊りの連にも多くの方が参加していただき盛り上がりしました。2時間半の宴はあっという間に過ぎていきました。なんとと言ってもクライマックスの校歌斉唱は、誰もが当時を懐かしく思い出す瞬間ではないでしょうか。4番までの歌唱は長いとも思いましたが、大きな声を出して歌う事は心身ともにリフレッシュになり、期待される効果は

非常に大きいと思います。自分は音痴だから歌いたくないという人も心の中で歌ってくれていました。いい表情しています(笑)！。また、マイクを回すととても素敵な声で歌っていただけで嬉しかったです。

そして万歳三唱後、第43回川辺高等学校東京同窓会は、無事終了しました。協力いただいた皆様ありがとうございました。

また、来年も元気にお会いしましょう。

帰りの道すがらも校歌がわたしの脳裏を反芻していました(^^)。

「乾杯」を皮切りに、なつかしい本場の「つけあげ」についつい芋焼酎がすすみました。友との語らいはさ

らにはずみ恒例の踊りの連にも多くの方が参加していただき盛り上がりしました。2時間半の宴はあっという間に過ぎていきました。なんとと言ってもクライマックスの校歌斉唱は、誰もが当時を懐かしく思い出す瞬間ではないでしょうか。4番までの歌唱は長いとも思いましたが、大きな声を出して歌う事は心身ともにリフレッシュになり、期待される効果は



母校だより

学校だより

同窓会係 内菌和浩

夏休みの川辺高校についてお知らせいたします。夏休みは全学年で補習が行われ、生徒は真剣に学業に励んでおります。同窓会のご尽力により建てられた尚学舎という施設で、三年生や部活動生が補習期間外でも自習に取り組んでいます。特に、三年生は自分の進路実現に向けて、朝早くから夜遅くまで一生懸命努力しています。中には、夏休み期間中に早くもAO入試に挑戦する生徒がおり、その生徒にとっては、受験が始まったということになります。三年生にとっては、勝負を決めるこの夏休みに、是非学習に集中して取り組んでほしいものです。

生徒にとって、夏休みは学習だけでなく、部活動にも時間をかけられる時期です。ほとんどの部は、二年生を中心とした新チームでの活動がすでに始まっています。夏休みは、秋の新人戦に向けてしつかり練習を重ねながら、チームとしての基礎力

をつける大切な時期になります。休日には、練習試合や各種の大会に参加し、チーム力の向上に努めています。また、学習や部活動だけでなく、自分の希望する進路の実現につながる活動にも力を入れている生徒もいます。夏休みの間に、一・二年生の中には大学等のオープンキャンパスに参加している生徒が今年も見られました。他にも、川辺祇園祭での神輿担ぎや給水補助等、川辺みどり園でのワークキャンプ、県教委主催の「高校生イングリッシュユトレイニングキャンプ」に参加する生徒もいました。また、県教委主催で県内の二年生対象に行われる「夏グレードアップゼミ」に、二年生の中の約四十名が参加しました。さらに、三年生の二名の生徒が「鹿児島県青少年国際協力体験事業」の団員として、カンボジアへ海外研修に行きました。生徒は自分の将来を見据え、さまざまな経験を積極的にしようとして頑張っています。

このように、生徒は各学年それぞれの目標に向かって充実した夏休みを過ごしています。二学期に入ると、三年生にとっては本格的な受験シーズンが始まります。今後とも母校・

後輩へのご支援をよろしく願います。

〈お知らせとお願い〉

来年川辺高校は創立一二〇周年を迎えます。令和二年十一月二十一日に、慰霊祭・記念式典・記念講演を学校で、記念祝賀会を川辺町の宴会オカノで実施する予定です。(下の写真は川辺高校前バス停に設置した横断幕です。)ぜひ時間を作っていただき、母校においていただければと思っております。また、今回の周年記念事業では、生徒の学習環境の向上という点に絞った事業を実施いたします。その第一弾として、学校へのタブレットの導入を今年四月末に行いました。それ以外の記念事業もこれから計画・実施の予定です。今回、一二〇周年記念事業に向けた募金趣意書と振込用紙を送らせていただきました。募金趣意書をお読みになり、ご協力がいただけましたら幸いです。



文化祭で書道部が作成した作品パネル



夏グレードアップゼミの様子



大学等担当者を招いて行われた
進路ガイダンスの様子



音楽部

本校は、7月30日（火）に行われた県吹奏楽コンクールで、8月11日（日）に宮崎市で行われる南九州小編成吹奏楽コンテストへの出場権を得ました。南九州小編成吹奏楽コンテストでは練習の成果が実り、金賞を勝ち取ることができました。



本格焼酎 さつま **寿**
(株)尾込商店
 代表取締役 尾込 宜希
 〒897-0215
 鹿児島県南九州市川辺町平山6855-1
 電話 0993-56-0075
 Fax 0993-56-0596

 本格焼酎 八幡
高良酒造(有)
 代表取締役 高良 武信
 〒897-0214
 鹿児島県南九州市川辺町宮4340
 電話 0993-56-0181
 Fax 0993-56-0585
 お酒は20歳になってから

医療法人 菊野会
 整形外科・神経内科・消化器内科
 リハビリテーション科・リウマチ科
 介護老人保健施設
か 野 野 病 院
 かわなべ 寿光苑
 川辺訪問介護ステーション小菊
 介護支援 センター
 療育センターあおぞら
 理事長 菊野 竜一
 会長 菊野 光一郎
 南九州市川辺町平山三八一五
 電話(五六)一一三五

森田建設(株)
 本部同窓会 森田 剛(S43卒)
 会 長
 川辺町上山田4330
 TEL.0993-57-3321
 FAX.0993-57-3323

川辺町
高田郵便局
 本部同窓会 高田 政雄 (S48卒)
 副 会 長
 川辺町高田355
 TEL.0993-56-1525

手づくりの技
 ひとつひとつ真心込めて…
 仏壇の **瑞光堂**
 代表取締役 原口 和秋 (S45年卒)
 鹿児島県南九州市川辺町平山6842番地
 (鹿児島銀行川辺支店前)
 電話0993-56-1107
 URL <http://www.zuikoudou.com/>
 Fax 0993-56-4568
 E-Mail info@zuikoudou.com

関東さつま川辺会
 第30回総会(記念大会)は、
 令和2年3月15日(日)12:00より
 ホテルメトロポリタンエンドモント(千代
 田区飯田橋)で開催致します。川辺出
 身の方に限らず、ご縁のある方々もチヨ
 ノンでのご参加をお待ちしております。
 会長 川 野 博 一
 (川辺高昭和37年卒)
 連絡先 〒181-0005 三鷹市中原3-8-30
 事務局長 吉 留 浩 一 (0422-26-7065)

JXエネルギー株式会社特約店
 三井住友海上火災保険株式会社代理店
株式会社 前野石油
株式会社 前野設備
 代表取締役会長 前野 政美
 代表取締役社長 前野 耕作
 ■石油事業部 ■ガス事業部
 ■車販・太陽光事業部
 ■住宅関連事業部 ■損害総合保険事業部
 ■車検事業部 車検・板金センター
 (国土交通省運輸局指定工場 指定番号 鹿-885)
 本社 〒897-0211 鹿児島県南九州市川辺町両添1026
 TEL0993-56-1336(代) FAX0993-56-3983


株式会社 加覧組
 代表取締役 新 谷 昭 彦
 (S59年卒)
 〒897-0213
 鹿児島県南九州市川辺町小野1184
 TEL 0993-56-0321
 FAX 0993-56-2173

先輩、後輩のみなさん高田馬場の
 郷土料理+「薩摩の里」にぜひ
 おじゃったもんせ!!
 新宿区高田馬場4-18-10-2F
 TEL 03(3363)3258 FAX 03(3350)1483
 予約 40名様可能 営業時間 午後5時より午前1時まで
 定休日 第1・第3日曜日 高田馬場駅徒歩5分
 店主 山下由人(知覧出身、S48年卒)

南谷綜合法律事務所
 弁 護 士 南 谷 知 成 (昭和36年卒)
 弁 護 士 南 谷 敦 子 (長女)
 弁 護 士 南 谷 博 子 (三女)
 パラリーガル 西 真由子 (平成17年卒)
南谷朝子公認会計士事務所
 公認会計士 南 谷 朝 子 (二女)
 〒810-0041
 福岡県福岡市中央区大名1丁目8-10
 福岡安藤ハザマビル5F
 TEL: 092-724-1113
<http://minamitani-law.jp/>

みなみにひろたか
南谷洋至法律事務所
 弁 護 士 南 谷 洋 至
 (昭和49年卒)
 金峰町白川・阿多中出身
 世界一の人生応援団長を目指しています。
 いつのときも、神戈陵魂が、心の支えです。
 〒810-0041 福岡市中央区大名一丁目8番12号
 第二西部ビル3階・南谷洋至法律事務所
 TEL 092-736-1531 FAX 092-736-1533
 (川辺高校福岡同窓会事務局)

JA 鹿児島県経済連直営店 鹿児島華蓮銀座店

第 11 回全国和牛能力共進会にて日本一の和牛に輝いた鹿児島黒牛をはじめ、
鹿児島黒豚や黒さつま鶏など、確かな食材でおもてなし致します。

東京都中央区銀座 8-8-8 銀座 888 ビル 9F
TEL 03-3572-3153
【営】☎11:30~14:00 ②17:30~22:30
【休】日曜日・祝日



昭和38年卒の皆さん

後期高齢者の
仲間入りを記念して、
来年の総会・懇親会
(令和2年5月23日)
に皆で集まりましょう。

昭和38年卒有志

ご支援ご協力
ありがとうございました
皆様の一段のご健勝を
お祈り申し上げます

前会長
小原 東洋明
(昭和38年卒)

会員の皆様のご健勝を
お祈り申し上げます。

元会長 (昭 34 年) 大平政弘
〒247-0025 横浜市栄区上之町 47-16
電話：045-891-0197

ミネ・アニマルヘルス

獣医師 峯 苦 稔 三
(41年卒)

家畜の病気を予防し、安心・
安全な畜産物の生産に取り
組んでいます。

〒300-1622
茨城県利根町布川454-180
電話：090-2440-7109

S41年卒のおごじよさん達へ

令和2年3月28日(土)に恒例の
女子会(元よかにせも参加)を
新しく開設された豊洲市場見学
とランチを兼ねて開催します。
みんな、おじゃったもんせ!!

(連絡先) 橋本起世子

コバルト プランニング

より良い未来の創造に
向けて、夢をかなえる
手助けをいたします

ストラテジスト
小原 東洋明
(昭和38年卒)

知的 創造

源泉混混として、
昼夜を舍かず。
科に溢ちて
面る後に進み、
四海に放る。
(五字) 離筆より

小社は学校の教材や書籍、チラシなど印刷物全般を専門に、千代田区で創業以来、本作りの専門会社です。自社で入力から製本まで一括で出来るからこそ、安価でご提供させて頂いております。

企画編集から製本まで 自費出版大歓迎!! カラー名刺・絵ハガキ・封筒・ポスター・横断幕 小部数でも安価でできます ご相談下さい

Eishin 株式会社 盈進社
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-2 三信ビル
TEL 03-3262-3471代 FAX 03-5210-7226
Eメール: info@eishinsya.co.jp

相続に関するご相談!

・親子、兄弟姉妹で
円満相続

ライフプランナー
ファイナンシャル・プランナー(日本FP協会会員)

内村 哲也

(昭和50年卒)

東京都品川区大崎 1-11-1
ゲートシティ大崎ウエストタワー
ブルデンシャル生命保険株式会社
首都圏第1支社
TEL: 03-6675-9837
携帯: 090-4962-1820

シモ動物病院

院長 霜出 幸七
(41年卒)

愛犬・愛猫の病気の予防
治療に、ご利用ください。

〒891-0113
鹿児島市東谷山3-36-11
電話 099-267-5959

昭和40年卒業の みなさんへ

今が青春ですよ!!

残りの人生の出発点!!

皆んな集まって、
青春を語ろう!!

第44回総会懇親会

2020年5月23日(土)

11:00 ~ 15:00

ワシントンホテルにて



第41回総会懇親会より

[昭和40年卒有志]

「川辺高校東京同窓会存亡の危機!!」

過去5年間平成年度卒業生の出席が異常に少ない、
これでは途々に会がしぼんでしまうと思います。よ
って、平成年度卒業生との交流を行ない、少しでも
会員を増やしこの同窓会がすたれるのをふせぐ為に
今から準備して行きましょう。

昭和45年卒有志名付けて「アクティ45」

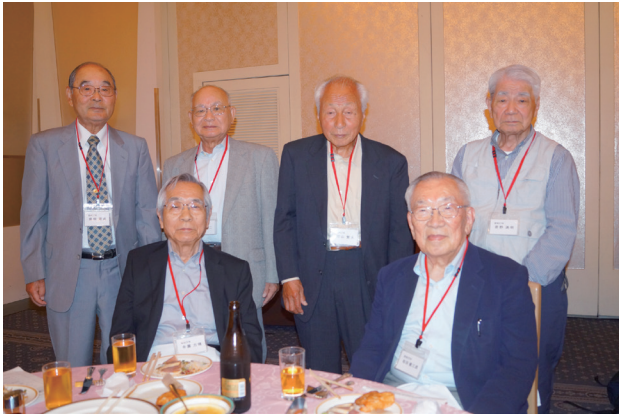


昭和45年卒



母校玄関の彫刻と桜島絵画

われら神戈陵同窓生



昭和25, 27年卒



昭和28, 29, 30年卒



昭和32年卒



昭和33年卒



昭和34年卒



昭和35年卒



昭和36年卒



昭和37, 38年卒

われら神戈陵同窓生



昭和39, 40年卒



昭和41年卒 (年度幹事)



昭和43, 44年卒



昭和45年卒



昭和46年卒



昭和47, 48年卒



昭和49, 52, 53年卒



昭和50年卒

われら神戈陵同窓生



昭和51年卒 (年度幹事)



昭和54, 55, 平成6, 9, 27年卒



受付準備完了!



特別講演の矢島講師 (45年卒)



特別講演は今年も満席



司会の下之蘭さん、畠中さん (51, 50年卒)



小原前会長 (38年卒)、ご苦労様でした



森山新会長 (41年卒) と新役員の皆様

われら神戈陵同窓生



森田本部同窓会会長 (43年卒)



前田川辺高校教頭



ビデオでの川辺高校概況説明



高山川辺高校教諭



楽しく輪になって踊る同窓生、井料さん (30年卒) が「おはら節」の替え歌を披露



校歌斉唱



万歳三唱

事務局からのお知らせ

第四十三回総会の報告

6月8日新宿ワシントンホテルで
会務報告(別紙参照)、会計報告(別紙参照)があり了承されました。
また、今期は役員改選の年にあたり、新会長就任を始め別紙のとおり体制を進めさせていただきました。今後とも宜しくお願いいたします。

年会費について

東京同窓会は会員の皆様から納入いただいた会費で運営されています。いつも納入ありがとうございます。総会・懇親会にご来場いただいた際に参加費とともに会費をいただいています。また、ご来場いただけない場合には、お振込していただいています。総会の受付等で納入いただいている方以外の方に振込用紙を同封させていただきました。是非とも年会費の納入にご協力いただけますようにお願い申し上げます。

新規会員の発掘

毎年の高校同窓会で楽しい時間を過ごせたと良い声や声を聞くと事務局としても嬉しい限りです。長年懇親会に出席頂いている方も大勢いますし、最近では若手も増えてきました。今後も新規の会員の開拓に力を入れていきたいと思っております。会員の皆様、関東に在住のご友人、ご親戚などいらっしゃいましたらぜひ、次回の総会にお誘いいただけるとありがたいです。また、事務局までご連絡頂けると案内状をお送りし

平成30年度 川辺高等学校東京同窓会 会務報告

- 平成30年 4月26日 新会員(関東地区進学者)へのお祝い&記念品贈呈
28日 役員会(総会1か月前の打合せ)
5月10日 リマインドコール実施
26日 役員会(総会1週間前の打合せ)
6月1日 本部同窓会・母校との交流会
2日 特別講演会開催
第42回総会・懇親会
23日 薩南工業高等学校同窓会関東支部総会
7月7日 役員会(役員役割分担 総会検証会)
23日 会報誌広告募集(川辺地区)
8月1日 会報誌原稿要請の案内状発送
9月22日 第1回会報誌編集会議
29日 第2回会報誌編集会議
10月15日 関東知覧会
18日 会報誌校正作業(印刷打合せ)
27日 評議員会
27日 会報誌発送作業
12月6日 母校修学旅行生との懇話会(神戈陵塾 in 東京)
平成31年 1月26日 役員会(総会懇親会企画会議)
3月2日 役員会(総会懇親会企画会議)
3日 関東さつま川辺会
31日 評議員会
31日 総会案内状発送

平成30年度 川辺高等学校東京同窓会 会計報告

自:平成30年4月1日
至:平成31年3月31日

Table with 4 columns: 収入の部, 金額, 支出の部, 金額. Rows include 総会会費収入, 年会費収入, 会報誌広告収入, etc.

出席者総数 180名

内訳(会員男性85名、会員女性80名、学生6名、会員外1名、来賓者8名)

上記の件、監査の結果相違ありません。

令和元年5月11日

会計監事 田格 山本

東京同窓会会則の一部変更の件

(変更箇所は下線部分)

Table with 2 columns: 現行会則, 変更案. Row 16 details meeting frequency changes.

変更に伴って附則に以下を追加する。

本会則の改正は令和元年6月8日より有効とする。

ホームぺージについて
東京同窓会開設しているホームページがあります。総会の時の写真をアップしています。また、そのほか、高校のホームページなどありますので案内いたします。是非、覗いてみてください。

第44回総会・懇親会のご案内

来年度の総会懇親会のご案内です

- (1) 日時: 2020年5月23日(土)
(2) 場所: 新宿ワシントンホテル

趣向を凝らし、お待ち申し上げます
卒業年度末尾2の付く年度の皆さん
年度幹事です ご協力お願いします

川辺高校東京同窓会ホームページ

http://kawanabe-hs-tokyo.com/



フェースブック：ページ名

「川辺高校 東京同窓会FBコミュニティ」



川辺高校ホームページ：

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/kawanabe/

川辺高校公式ブログ：

http://kawanabe.edu.pref.kagoshima.jp/



役員改選の件

令和元年 6月

Table with columns: 役職名, 氏名, 卒業年度, 備考. Rows include 第41期~第42期 役員 and 幹事.

Table with columns: 役職名, 氏名, 卒業年度, 備考. Rows include 第43期~第44期 役員(案).

2020年

母校では創立120周年を迎えます。

川辺高校創立120周年事業 記念式典開催

令和2年11月21日 場所：川辺高等学校

編集後記

事務局長 中原信寛(昭和五二年卒)

鹿兒島を旅立ったあの日から... 遠い場所で長い時間が過ぎてても... あの日を思いを覚えていいますか... いくつかの道からたった一つを選び... 幾度となく立ち止まり時には振り返り... 振返っても何も見えないけれど... 故郷を旅立ったあの日から今日まで... 背中を押し続けてくれた人がいます... 皆と一緒に自分を励ましてくれた... 故郷の力を思い出すことが出来ます... 長く会っていないけれど懐かしさ... 鹿兒島弁を忘れても話したくなり... 来年は2020年5月23日(土)... 例年通り新宿ワシントンです... 少しの焼酎だけで酔ってしまうのは... 歳を取ったからではありません... 少しの焼酎で酔っ払った若いころに... 返れるからだと思います... 同窓会も自分の道も続きます... 鹿兒島を旅立ったあの日から... まだまだ道は続きます

編集者

- 森山、菊永、川原、松永、橋本、岡本、椎原、山本、蔵元、内村、中原、田中、深井、下之蘭、峯苦



正門から「神戈陵尚学舎」を望む